

敷島北小学校 学校関係者評価書（前期）

平成27年6月30日（火）

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成27年6月30日（火）午後3時～

会場：敷島北小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員 山本重高 雨宮清一 石橋浩二 小田切保人
中込潤一 保延浩子 坂口綾子 島 信弘 竹川雅博
学校側 校長：秋山 均 教頭：河西慶仁 教務主任：松橋 勝

I 学校側から提案された内容

学校側から6月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

①教職員の「自己評価」結果から

I 学校教育目標・学校経営について

全ての項目に対して、「A そう思う」という評価が一番多かった。特に「1 あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」という学校の基本については、全員がそのような認識できている。「3 あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」、「5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで教育活動が取り組まれている」という、学校が教育活動を進めていく上での重要な点については市平均を上回る見方をしている。一方、「4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」という、自身の取組の様子については、やや辛口な見方をしている。職員集団としてお互いを認めつつ、さらなる向上を目指している姿勢の表れととらえることができる。

II 学校運営について

10項目中の9項目で「A そう思う」が一番多く、ほとんどが市全体の平均を上回っており、学校運営が円滑に行われていることを示している。特に、「3 諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している」、「7 職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている」は、9割ほどに上り、職員の意識が高い姿勢がうかがえる。一方、「危機管理マニュアルを理解している」という項目については、「B ややそう思う」が「A そう思う」を上回り、現時点ではまだ浸透していない状況であるといえる。

III 学習指導について

市との比較では、オリジナル項目を除く全ての項目で、肯定的な回答が上回っており、意識を高くもって日々の指導が実践されていると言える。その中でも、「1 学級・学年・学校集団づくり」、「2 学びの意欲を喚起する授業」については相対的に高く、職員が児童の実態や状況に応じた指導を行っている姿がうかがえる。その一方で、道徳については「A そう思う」と言い切れない状況が見られ、今後の改善が望まれる。

IV 生徒指導について

全ての項目で「A そう思う」の評価が一番多く、昨年度の同時期よりも全体的に高い割合を示しており、特に、「1 児童生徒理解のためにコミュニケーションを図つ

ている」が高い値であり、積極的に児童に向き合っている姿勢が感じ取られる。一方、市全体との比較では「2 児童生徒の規範意識をはぐくむ指導」「4 問題行動の早期発見」が市平均をやや下回っており、「3 生き方教育」も「A そう思う」が一番多いものの5割にとどまっており、これらについてはさらなる向上を目指す必要がある。

V 地域との連携について

全ての項目で市全体を上回っており、本校の特色ともいえる地域とのつながりの強さを示している。地域の方々やおやじの会、母親の会など、PTA以外の方々にも多くのご支援やお力添えをいただいております、そのありがたさを職員も感じているところである。また、PTA活動や日頃の活動について保護者の方々も協力的であり、学校・保護者・地域が連携しながら児童の育成に当たっているといえることができる。

VI 学校の特色に関して

8項目の全てにおいて「A そう思う」の回答が一番多かった。特に、「6 ALTの活用」については、昨年度からのALTが継続勤務することとなり、職員も積極的に関わって外国語活動に当たっている姿勢がうかがえる。その一方、本校の特色として業前活動でも取り組んでいる「3 読書活動」については、「A そう思う」が半数であるが、業前活動で満足することなく、さらに積極的な読書活動を期待していることを示しているものと思われる。

②「児童アンケート」結果から（敷島北小と甲斐市小学校全体の比較）

1 学校は楽しいですか

・「とても楽しい」の回答が市全体に比べて多く、肯定的な回答の割合も市とほぼ同様であるが、否定的な回答も6パーセントあまりいる。

2 クラス(学年)に仲の良い友達がいますか。

3 こまったことがあったら、相談できる友達がいますか。

・市全体とほぼ同じ分布であり、全体的には良好な友達関係がうかがえるが、「相談できる友達」について「いない」と回答した児童が低学年でやや多くみられる。

4 人がこまっているときは、進んで助けていますか。

・「進んで助けている」の回答が市全体を上回っており、積極的な手助けをしている児童が多い様子がうかがえる。

5 学校の授業は楽しいですか。

6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。

・昨年の同時期のアンケートに続いて今年度も、ともに「とても楽しい／よく教えてくれる」の回答率が市全体を大きく上回り、「6 先生はよく勉強を教えてくださいますか」については、「教えてくれない」という回答が皆無であった。

7 国語の授業の内容はわかりますか。

8 算数の授業の内容はわかりますか。

・ともに肯定的な回答は市全体とほぼ同様であるが、「とてもわかる」という回答が市全体を上回っている。

9 授業(勉強)でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。

・自分から学習について質問をしているという積極的な回答が市全体と比較して少なく、「あまり聞いていない」「聞いていない」という消極的な回答が2割ほどある。

- 10 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。
- ・学習での質問には消極的な面が見られた反面、相談ごとについては、積極的な回答が市全体を大きく上回っており、良好な傾向にあるといえる。
- 11 授業中に質問や意見を言っていますか。
- ・率先して発言するという児童が市全体を上回り、主体的に学習に臨んでいる姿がうかがえる。特に、「よく言っている」とする児童が昨年度より大きく増えている。
- 12 宿題を忘れずにしていますか。
- ・肯定的な回答は市全体とほぼ同様であるが、「よくしている」という回答はやや下回っている。また、市全体よりも割合は低いものの「していない」と回答した児童も数名いる。
- 13 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。
- ・学年ごとに設定した時間に対し、「いつもしている」「だいたいしている」の回答が市全体を上回り、9割以上が良好な回答をしている。
- 14 家の人と学校での様子を話していますか。
- ・市全体とほぼ同様な分布であるが、「よくしている」がやや上回っている一方で、「していない」という回答も市全体の割合よりも多くなっている。
- 15 月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。
- ・全体的に市全体よりも就寝時間が早い傾向が見られるが、就寝時刻が午前0時過ぎの児童も数名見られる。
- 16 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- ・肯定的な回答は市全体とほぼ同様であるが、「よく参加している」という積極的な回答は市全体を下回っている。
- 17 朝ごはんを食べて登校していますか。
- ・「いつも食べている」は市全体を上回っているものの、「あまり食べていない」という回答も市全体よりも多くなっている。
- 18 地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。
- ・「よくしている」の回答が市全体を大きく上回っており、積極的に挨拶している児童が多いことがうかがえる。
- 19 月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしめますか。
- ・「2時間以上」の児童は市全体をやや下回っているものの、「30分以上」の児童が全体の65%以上に上り、学校全体としては読書に親しんでいる児童が多いと言える。
- 20 将来の夢や希望を持っていますか。
- ・肯定的な回答が市全体を上回り、「しっかり持っている」という回答は市全体より大きく上回っている。
- 21 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。
- ・「よく守っている」は市全体を10ポイント以上上回っており、意識をしっかりもって学校生活を送っている姿がうかがえる。
- 22 清掃活動をしっかりしていますか。
- 23 委員会活動にしっかり取り組んでいますか。

- ・ともに市全体とほぼ同様な分布であるが、「A そう思う」の回答が市全体を5ポイントほど上回っており、やるべきことに意欲的に取り組んでいる姿勢がみられる。

【以下 学校オリジナル設問】

25 本を読むことが好きですか。

- ・90%以上の児童が読書に対して好意的な回答であった。

26 先生や友だちの話をしっかり聞いていますか。

27 自分の考えを先生や友だちにしっかり話していますか。

- ・「しっかり聞く」は「A そう思う」が7割以上なのに対し、「しっかり話す」は「A そう思う」が5割弱と、話すことに対してやや苦手な様子が見られるものの、昨年度よりはその差が小さくなってきている。

(2) 今後の方針（改善策）

①「自己評価」結果からの取組

○学級数の減少にともなって

本校は、昨年度に比べ学級数が1つ減となり、1年生から5年生までが単学級、6年生が2学級、特別支援学級が1学級の計8学級となった。それにともない、学級担任も1名減少になっている。

学級数は減少する反面、単学級学年の児童数は33名から40名と、1クラス当たり的人数は増加している。そうした中、指導の効果を上げるため、支援員やアクティブ加配教員の配置を考慮しながら時間割を調整し、1年生と2年生は全時間、3年生以上は午前中を中心に、2人体制での指導を行っている。そのために、職員同士が打合せや連絡を密にすることを心がけており、全体の意志の疎通が図りやすい職場環境も相まって、学校全体のまとまりを保ちながら日々の指導に当たることができている。

②今後の取組

I 学校教育目標・学校経営について

「A そう思う」という評価が全ての項目において一番多かった反面、自己の取組や姿勢については比較的厳しく評価する傾向が見られるが、それは現状に満足せず、さらに向上する余地があることを自覚している現れととらえることもできる。これからも職員一同が協力し合いながら、よりよい北小を目指して日々の教育活動に当たっていききたい。

II 学校運営について

「危機管理」に関して、いつどこでどんなことが起こっても、職員一人一人が適切に対処できるように、改めてきちんと意識し、マニュアルについての理解を深めていきたい。それとともに、今年度の校内研究では、防災教育をテーマに設定したので、個々がしっかりと課題意識を持って研究を進め、学校運営にも生かしていきたい。

III 学習指導について

1学級の人数が多い中においても、TT体制や指導形態の工夫などにより、より充実した指導を心がけ、実践を重ねてきている。わかる授業はもとより、子どもが主体となり、生き生きと取り組む授業となるように、これからも工夫や改良を加えながら指導に当たっていききたい。また、道徳についても児童の実態や発達段階を考慮しながら計画的に指導を行っていききたい。

IV 生徒指導について

児童がこれから成長していく上での指針となるであろう「生き方教育」については、

職員側の意識も新たにし、教育課程を改めて確認しながら推進していくことが大切である。児童の問題行動やいじめ等については、子どもの様子に細かく目を配るとともに、職員同士が連携を図りながら、情報を共有化し、学校全体で指導に当たっていくことを再確認したい。

V 地域との連携について

おやじの会や母親の会をはじめとして、多くの地域の方々や外部講師の力を借りながら、北小の教育は進められている。その内容は多岐に渡り、特に、本校の特色の一つである米作りについては、協力なくしてはとても成し得ないものである。これからも、そうした方々のお力添えをいただきながら、児童を様々な活動に取り組みせていきたい。

VI 学校の特色に関して

図書委員会による読書集会や読書活動時の読み聞かせなど、児童への読書に目を向けさせる活動が行われているが、日常の中でも子どもが読書活動に励むことができるよう、いっそうの働きかけを行っていきたい。ALTの活用については、これからも職員とALTの連携を図りながら、活動に取り組んでいきたい。

□児童アンケートを受けて

①一人ひとりの些細な様子にも目を向けて

全体的に市全体と同様な傾向が見られるものの、昨年度と比較すると、積極的な面や肯定的な姿がやや下がっている様子が見られる。改善の余地があるものについては、これまでの指導を振り返るとともに、これからの効果的な方法を模索していきたい。また、「D そう思わない」の評価をしている児童については、その状況や原因を調べ、改善を図る必要がある。いずれにしても、職員間の連携をいっそう密にするとともに、家庭との連携も図りながら、一人一人への目配りや気配りを細かくして指導に当たっていききたい。

②学習に対していっそう積極的な児童に

学習で分からないことがあっても先生に聞くことが少ないが、先生に相談ごとにはできるという回答からは、児童と職員は良好な関係ができてきているものの、学習に対しては深く追究しようとする傾向は弱い姿が推察される。本校児童の課題といってもいい「発言」については、前向きな様子が見られてきていることから、学習に対しての児童の意欲の向上や目標意識を高める働きかけを粘り強く繰り返しながら、児童が学習の主体者としての意識をきちんと持って学習に臨むように指導を重ね、学習に対してより積極的な面を伸ばすようにしていきたい。

□自己評価・児童アンケートの相関から

①わかる・楽しい授業の創造を

教職員の学習指導の評価に対して、児童の学習指導への評価は相対的に高くなっており、教員の学習指導に対する姿勢が児童に伝わっていることの表れととることができる。その一方で「授業が楽しい」という点については、まだ改善の余地がみられることから、学習の楽しさを児童が感じ取ることができるような「わかる授業」の創造を、これからも教職員集団が一丸となって目指していきたい。

②学年・学級の実態を共有して

学級数が減少したものの、発達段階の違いや、一人一人の個性が重なり合って形成さ

れる状況によって、その学級集団の特性や状態は実に違いが大きい。その違いを職員全員が理解し、共有して児童に向き合い、学校全体が一丸となって敷島北小の児童の成長に寄与しながら学校教育を推進していきたい。

③自分の思いを伝えられる児童に

良好な評価が多くなってきたといっても、進んで発言したり、意見を言ったりすることができる児童は、まだ全体的には少数で、苦手意識や抵抗感をもつ児童も多い。自分の思いを伝えることは、様々な面で求められるので、そうしたことにきちんと対応できるような力を高めることを目指して、これからも継続して指導や取組を工夫していきたい。

II 協議された主な内容 (評…評価委員 学…学校側)

学校関係者評価委員会に先立ち、5校時帯に授業参観の場を設け、学校の現状、児童の様子などを観察していただいた。その感想を踏まえ、協議を行った。

①家庭・地域の教育力について

評…「あいさつ運動」について、本校児童は、他校に比べあいさつをする子が多いと感じるが、自分から進んでする子は少ないようだ。また、親子であいさつしているか疑問に思うことがある。あいさつは、勉強よりも大事で、将来、社会に出るときも重要視される。当たり前のように徹底し、大人が大きな声であいさつし、お手本を示すことが大切だ。

学…学校に近くなるほどあいさつの声が大きくなるという実態があるようだ。自分から進んであいさつすることは、学校全体で取り組んでいることなので、これからも家庭や地域にも呼びかけて習慣化させたい。

評…卒業式などの儀式の時に保護者の私語が気になった。親の態度が子どもたちに大きく影響するので、家庭でのしつけができていないのが疑問だ。また、親子で一緒に話をすることで話す子に育つのではないか。また、不登校はあるのか。

学…不登校児童はないが、登校しぶりの子は数名いる。本人への声かけ等の配慮をしたり、保護者との連携を密にしたりしてケアしている。

評…アンケート結果から、就寝時刻が10時過ぎの子がいるが、スマホ等は影響しているのか。地区別懇談会でもスマホの使い方の問題が出た。校外での学習も積極的取り入れるなどの対応が必要である。

学…市教委から、携帯・スマホについてのガイドラインが出された。携帯・スマホは学校に持ってこないことになっているので、購入から使用まで、家庭での判断や指導が基本となる。今年度の学校保健委員会(11月13日開催)では、健康とスマホの影響について考える機会となるように講演会を行う予定である。

②危機管理への取組について

評…防災について、地区でも取り組んでいるので、できれば連携して取り組むことを希望する。また、登下校途中での災害時、班長に任せるだけでなく、マニュアル等である程度原則的な行動が決められているのではないか。

学…一昨年度から、男女共同参画の呼びかけで、学校の代表(教頭)が会に参加して、地域の方と防災について考える機会を得た。今年度も「実践的防災教育推進事業」の指定を受けているので、地域や関係機関と連携して防災教育に取り組みたい。また、様々な場面を想定した訓練を実施したい。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 1 教職員の自己評価も「A評価」が増えているので、これからも自信をもって教育活動に取り組んでほしい。
- 2 「命を守り、生きる力を身につける子どもの育成」をテーマに取り組んでいる校内研究に力を入れることで、学校全体の危機管理の向上に期待したい。
- 3 「学校は楽しい」「仲良く遊ぶ友達がいる」「わからないことは先生に聞ける」などの項目で、さらに「A評価」が増えるようにしたい。

II 特徴

- ・今回の教職員の自己評価書及び児童アンケートの結果から、全体的には改善された項目が多く、評価も「A・B評価」がほとんどを占め、良好な結果であった。
- ・少数ではあるが、「学校が楽しくない」、「仲良く遊ぶ友達がいらない」、「困ったときに相談できる友だちがいらない」と感じている児童がいることが課題である。
- ・授業中に質問や意見を言う児童が増えてはいるものの、市全体との比較で、「授業でわからないことがあったら、先生に聞く」で、「A評価」の割合が少ない。
- ・PTA、おやじの会、母親の会などの強力なバックアップがありながら、子どもたちは、「地域の行事に参加する」という項目で、積極的に参加しているという回答が市全体よりも低く、地区や家庭により、温度差があるようである。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇「学校が楽しい」、「仲良く遊ぶ友達がいる」、「困ったときに相談できる友だちがいる」に「C・D評価」をした児童に対して、「Q-U検査」の結果等も踏まえて引き続ききめの細かい学級指導をしていかなければならない。特に、発達段階に応じた指導・支援に力を注いでいく必要がある。
- ◇「学校が安全で楽しい場所」となるようマニュアルの見直しや訓練等を実施し、「実践的防災教育推進事業」の目的が達せられるように、限られた時間の中で、実効性を伴う活動に結びつける必要がある。
- ◇教職員間の共通理解を図り、短期的、長期的両方の視野をもち、さらに充実した支援体制を築いていくことが望まれる。

※特記事項

なし

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 坂口綾子